

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 部	外 部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	民家改修型の木造建築を生かし、家庭的な雰囲気を保ちながら、利用者様と日常を過ごす努力をしている。	法人理念、グループホーム活動理念は玄関と事務所に掲示し、共有と実践に繋げている。職員の入社時は理念に沿った取り組みについて説明すると共に、年1回振り返りの時を設けている。職員本位の支援にならない様に気をつけて日々の支援に取り組んでいる。家族には利用契約時にパンフレットを用いて理念について説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や防災訓練、行事の際のおすそ分け、ゴミ出しの際の立ち番など、機会を作って触れ合うようにしている。	開設以来区費を納め、地域の一員として活動している。コロナ禍で再開されていない地域行事も多いが、春には地区の春祭りが再開した。「獅子舞」が来訪し、踊りを披露して頂いた。また、秋の地区文化祭に利用者が作った「ハリ絵」等の作品を出品して見学にも出掛けた。また、「ハンドベル」や「歌」のボランティアが来訪し、利用者は楽しいひと時を過ごした。コロナ禍で中断している短大生等の職場実習の受け入れを再開する意向を持っている。更に、運営推進会議を通じて区長さん等の協力を頂きながら、地域に開かれ親しまれる施設として活動することに取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭への作品展示や見学参加、交流会に参加しての演劇見学など、活動の姿を見ていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により中止していたが、11月から運営推進会議を再開(1月はインフル蔓延により中止)、今後も開催していく。	昨年11月より対面での運営推進会議を区長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、ホーム関係者が出席して、奇数月の第3木曜日に開催している。利用者の状況、活動やヒヤリハットの報告、意見交換等を行い、サービスの向上に繋がっている。なお、全利用者家族に運営推進会議開催の案内を送付し、出来るだけ多くの家族に出席して頂ける様に進めている。	運営推進会議の構成メンバーの枠を広げ各方面からのご意見、ご協力を頂き地域に開かれ親しまれる施設として活動を進める事に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	11月の実地指導を通じ、自施設の不足している部分を指摘していただきながら、積極的に連絡を取り、相談するようになった。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、管理者が集まり、法人として身体拘束対策委員会を開催、各施設の職員会議にて共有、実践している。	方針として拘束のない支援に取り組んでいる。帰宅願望のある利用者が若干名いる。毎日同じ時間になると家に帰るとの訴えがあるので職員が付き添って落ち着くまで話をお聞きしている。また、転倒危惧のある方が若干名おり、家族と相談の上で、人感センサーを使用している。年1回、身体拘束、虐待防止研修会を行うと共に、法人内で毎月開かれる身体拘束適正化委員会に施設長が出席して、委員会の内容をホームに持ち帰り、職員に伝えて拘束のない支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回、管理者が集まり、法人として虐待防止委員会を開催、各施設の職員会議にて共有、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に実践できていない。 個々の職員の学習に任せているのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明を行い、疑問や不安な面に関しては電話や通信アプリ、面会時などを利用して随時受け付けられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば随時受け付けているが、外部者に表せる機会が不足していると感じる。	民家改修型でアットホームな雰囲気が漂うホームに気軽に面会に来て頂く様に進めている。現在、家族の面会は事前に連絡を頂いた上で人数制限無しで短時間、居室で行っている。また、遠方の家族は正月、お盆等の長期の休みに面会に来ている。ホームでの生活の様子はSNSで担当職員が写真を添えて、お知らせしている。コロナ禍で中断している家族会を今年は再開したいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から要望や意見は、月一回開催の運営会議で発表、相談している。	毎月20日前後に運営会議を開催している。施設の状況、利用者個々のケア検討、施設長会議や事故・ヒヤリハットの報告、意見交換等を行い、意思統一を図っている。また、自己評価表を用いて自己評価を行い、年1回施設長と個人面談を行っており、意見を述べる機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、各職員自己評価を行い面接、結果を検討し昇給などにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に一度、法人全体で集まっての学習会の開催、要望があれば外部の講習や研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所間での交流は法人内研修や法人内交流会などの機会はあるが、他法人との交流の機会は少ない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書やサマリーを鵜呑みにせず、実際に話しかけや積極的に関わりあう努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時、ご家族と面談、傾聴するとともに、疑問や質問などあれば随時受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書やサマリーを鵜呑みにせず、実際に話しかけや積極的に関わりあう努力をして、何が必要かを探る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護ではなく、あくまで援助であり、人生の先輩であることを心の中において接していきたいと呼びかけているが、まだ努力していくべきと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合いながら、面会の機会を増やし、関係が希薄にならないように声掛けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、相手が面会など連絡を取ってくれるのを待っている状況であるが、積極的にはできていない。	家族から了承を得た友人、知人等の面会がある。年末年始やお盆等に自宅に戻られたり、家族と外食に出掛けている利用者も数名いる。理美容は、様子を見ながら職員がカットしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段、入床して過ごす方が大半になってしまってきているが、ホールに来られる方々のコミュニケーションができるよう関係を取り持つ。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の大半が逝去によるものであり、あまり関わりを持ててはいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の職員会議にて検討し、なるべく利用者様本人の希望に沿うようにしている。	意思表示の難しい方が若干名いるが、問い掛けに対する表情や仕草より意向を受け止めている。他の利用者には飲み物、洋服選び等の二者択一の提案も含めて利用者の希望に沿える様に心掛けている。日々の支援の中で気付いた事柄は「ひだまり日誌、個人記録」に纏めて記し、職員で情報を共有すると共に、申し送り時に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時にご家族に聞き取りを行ったり、会話が可能な利用者様には直接伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく本人の意向に沿うことができるよう、無理はさせないように考えて援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との連携や同意がまだまだ不足していると感じる。	毎月の職員会議の席上、ケア会議を開き「ひだまり日誌」も参考に意見を出し合ってモニタリングを行い、家族の希望も加味して、ケアマネジャーがプラン作成している。入所時は様子を見て短期目標として3カ月のケアプラン作成している。その後毎月のケア会議の中で検討を重ね、状態が安定している場合は3ヶ月毎に見直しを行い、変化が見られる時には適宜見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や観察記録、申し送りを通じて情報を共有、職員会議にて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常が同じような繰り返しになってしまいがちで今後努力していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じた花火大会やイルミネーション鑑賞、お祭り参加、外食など、行ける方は限られるが、できる限り参加していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の都合や利用者様の状態を鑑み、受診や往診の選択をしている。	契約時に医用機関の利用状況についてお話を伺うと共に、ホームの取り組みについて説明している。現在は入所前からのかかりつけ医を利用している方が若干名おり、受診時は家族が付き添っている。他の利用者はホーム協力医の往診で対応している。常勤看護師が1名在籍しており、利用者の健康管理を行うと共に、医師との連携を図っている。歯科については必要に応じて協力歯科医の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診や往診時に医師や看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療施設と連携をとって、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や本人の希望を聞き取り確認し、できるだけ穏やかにその時を迎えられるように考えている。	重度化、終末期を迎えた際の指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。終末期を迎えた時には家族、医師、ホームとで話し合いの場を設けている。家族の意向を確認の上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いた上で医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に数名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会にて訓練や教育は行っているが、定期的に実践できてはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練のうち、2回の避難訓練の実施をしている。	消防署へ届け出た上で、年3回防災訓練を行っている。5月と10月は火災を想定した消火訓練、利用者全員外へ移動しての避難訓練、通報訓練を行っている。また、1回は消防署職員に参加してもらっている。3月は防災訓練用の「DVD」を鑑賞して緊急時への心構えとしている。緊急連絡網の確認訓練はSNSを用いて定期的に行っている。「水」「乾パン」等を備蓄しているが、備蓄品の見直しを予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会などでスピーチロックや言葉による虐待が無いように学習している。	目上の利用者に対し尊敬の念を持って接している。トイレ介助は特に気を配り、周りに分からない様に声掛けをすると共に、ドアを必ず閉めることを徹底している。呼びかけ方は基本的には苗字を「さん」付けでお呼びしているが、同じ苗字の方がいる場合は下の名前でお呼びしている。また、入室の際には「失礼します」と声掛けをするなど、プライバシーに配慮した支援に繋げている。更に、スピーチロックの勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレの声掛けや気象の声掛けは本人の意向を尊重している。 訴えが聞き取れるように定期的な声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常日頃から注意は呼びかけあっているが、まだまだ職員の都合で進めてしまうことが見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時に選択できる方にはその都度声掛けをして選んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には食器拭きなどお手伝いをお願いしている。	自力で食事が取れる方、一部介助の方、全介助の方が各々三分の一の状況である。献立は冷蔵庫の食材を見ながら利用者の希望を聞いて、職員が調理し、出来立てを温かいうちに提供している。また、行事食として、正月には「ブリ」「おせち料理」、お盆には「おはぎ」「天ぷら」、冬至には「かぼちゃ」、土用の丑の日には「鰻」を提供している。また、11月には「干し柿」や「大根」「白菜」の漬物作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談しながらその方に必要な量を検討し、提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人による歯磨き、職員の指による口腔ケア、義歯の洗浄など、利用者様に合わせたケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを使用できる方にはできる限りお願いしているが、本人に無理のないように配慮している。	排泄は自力が若干名、一部介助が数名、全介助が三分の一の状況である。職員は個々のパターンを把握しているが、排泄表も参考にして定期的な声掛けのほかにも様子を見ながら早めにお誘いしている。排便については、3日間無い場合は下剤でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、水分量や食べ物の調整、場合によっては薬の服薬や浣腸や洗腸などの使用をして調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間はある程度決まっているが、本人の状況(排泄の様子など)によっては午前中に行う場合もある。	全利用者が介助が必要な状況であり、週2回の入浴を行っている。冬は「ゆず湯」で季節感を楽しんでいる。また、入浴後には希望をお聞きして、温かいお茶や牛乳等で水分摂取も進めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に可能な限り寄り添い、無理強いはしないように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会や観察記録などで情報を共有し、医師と連携して服薬量の調節を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事がないときは毎日が同じようになってしまっている。 変化が感じられるよう努力していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる方にはご家族、本人の要望があれば対応している。	外出時は自力歩行が三分の一、車いす使用の方が三分の二の状況である。天気の良い時には、玄関前のベンチに腰掛け外気浴を楽しんでいる。また、駐車場を有効活用して、春は花見、お彼岸にはお茶を飲みながら「ぼた餅」を味わい、秋には「秋刀魚」を焼いて楽しんでいる。また、夏には「時又」の花火大会を楽しみ、冬にはドライブを兼ねて天竜峡の「イルミネーション」の見学にも出掛けている。併せて家族と外食に出掛けたり、ホームで「和風レストラン」に食事にも出掛けている。今年は状況を見ながらドライブを兼ねた外出を増やして行きたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者様は現在入居していない。 以前は自分で管理されている方もいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら行える利用者様は現在居ないが、本人が希望すれば電話などの対応をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの蛍光灯を少なくして昔の居住空間を再現している。 毎日の清掃で清潔を保つ。	民家改修型の当ホームは広い駐車場と玄関前には2ヶ所のベンチが設けられている。ホールは大きなテーブルが設けられおり、全員が一緒に歌を歌ったり、食事を摂る寛ぎの場となっている。壁には利用者が職員と共に製作した見事な「ハリ絵」等の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごすことを強要せず、なるべく本人の希望に添えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして、なじみのものを居室に置けるようにしている。	民家改修型で居室は和室3部屋、洋室6部屋となっており、各居室は十分な広さが確保されている。家族と相談の上で、使い慣れた箆笥、衣装ケース、ラジオ等が自由に持ち込まれている。家族の写真等に囲まれ思い思いの日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がすることは積極的にこちらからお願いしてなるべく活躍の場が持てるように工夫する。		